

令和 6 年度 陽南中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

本校では、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領等に示された教育の目標や内容及び本県の教育行政の方針、さらに宇都宮市民憲章、宇都宮市学校教育スタンダード、陽南地区の教育的・文化的環境、本校生徒の実態等を考慮し、健康で明るく気力に満ちた 21 世紀を担う健全な生徒の育成のために、次の目標を設定する。

気力・体力・活力に満ちた生徒

心情豊かで責任感の強い生徒

自ら学び、創造性に富む生徒

○生徒指標：「よく学び、よく鍛えよ」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人権尊重の精神を基盤として、確かな学力、豊かな人間性、健康や体力など、変化の激しい社会を生きるために必要となる「生きる力」を確実に身に付けさせるとともに、自分のもつ良さに気づき、将来にわたって自分を高め、多様な人々と協働しながら自分と社会の未来を拓き、持続可能な社会の創り手となることができる生徒を育成する。

また、人間力の形成に向けて、全教育活動を通じて、「ほめて伸ばす指導（自己存在感・自己肯定感・自己有用感など自尊感情を育む指導）」の充実を図り、自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒を育成していく。

さらに、義務教育 9 年間を通して児童生徒の能力・態度等を育成していく観点から、小学校との連携を十分に図った小中一貫教育を推進するとともに、本校の伝統でもある地域に根ざした特色ある教育活動を一層推進していく。

こうした教育活動がより効果的に実践されるよう、学校のデジタル化を進めるとともに、学校における働き方改革を推進し、業務の効率化や労働時間の適正化を図る。

〔目指す教師像〕

- ・ 組織人としての責任感や協調性をもち、互いに高めあう教師
- ・ 優れた専門性と指導力をもつため、学び続ける教師
- ・ 人間性豊かで信頼される教師
- ・ 探求心をもち、新たな課題に対応できる教師

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導要領や第 2 次宇都宮市学校教育推進計画後期計画の趣旨をふまえると同時に、生徒の実態や学校・地域の特性を生かした特色ある教育課程の編成・実施に努める。
- (2) 地域や世界とのつながりの中で生活していることを自覚し、身につけた力を地域や社会のために活用できる特色ある学校づくりと教育課程の編成に努める。
- (3) 生徒の実態をふまえた個に応じた指導など、指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習を充実させ、生徒一人一人の確かな学力の育成に努める。
- (4) 共感的な生徒理解を基盤として、発達の段階に応じた生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- (5) 道徳科の充実を図り、生徒一人一人の道徳的実践力を高めるとともに、読書活動や体験活動を一層推進し、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める。
- (6) 健康管理や体力づくり、食に関する指導の充実を図るなど、生徒が将来にわたって健康的な生活を送るための基盤づくりに努める。
- (7) 生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育、進路指導を推進し、社会的・職業的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。

【キャリア教育の視点】

- (8) 保護者や関係機関等との連携を十分に図り、生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や長期的な視点に立った特別支援教育の充実を努める。
- (9) 陽南地区の児童生徒の豊かな心や確かな学力の育成を目指し、義務教育 9 年間を見通した系統的な指導や教職員の交流を通して、小中一貫教育の充実を努める。
- (10) よき伝統や教職員の創意工夫を生かしたり、地域の教育資源を積極的に活用したりする教育活動を推進するなど、特色ある学校づくりに努める。

- (11) 積極的な情報提供など家庭・地域社会との連携を一層深めるとともに、地域協議会の活動の活性化を通して地域に開かれた信頼される学校づくりに努める。
- (12) 教職員が、生徒と十分かつ適切に向き合う時間を確保するとともに、ワークライフバランスの実現のため、業務の効率化や勤務時間の適正化を図る。

【教職員の働き方に関する視点】

[陽南地域学校園教育ビジョン]

地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育 ～子どもの主体的な活動を通して～

テーマ：生きる力を育むための学力保障と学校生活適応能力の育成

～主体的・対話的で深い学びを通して～

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ① 関連する法令と学習指導要領の示すところに従って編成する。
- ② 校長の学校経営方針のもと、教育目標の実現を図るために編成する。
- ③ 新しい時代に生きる生徒に必要な資質・能力の三つの柱である「学びに向かう力、人間性など」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」のバランスのとれた育成を通して、「生きる力」の醸成を目指して編成する。
- ④ 各教科・領域の指導に当たっては、令和3年度から全面実施された学習指導要領を踏まえ、生徒の実態に応じ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め、一人一人の生徒が分かる授業の展開に努める。
- ⑤ 生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、心身の発達段階の特性を考慮して編成する。
- ⑥ 地域や学校の実態を考慮し、「特色ある学校づくり」の基盤となるように編成する。
- ⑦ 全教職員の参画と教師同士の連携・協力によって編成する。

(2) 留意点

- ・ 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で再構築する。(全教科・領域を通じた話し合い活動の充実、主体的に学びに向かう集団作り、言語環境の整備等)
- ・ 各教科、特別活動、総合的な学習の時間、国際理解教育、人権教育、環境教育等においてSDGsとのカリキュラムマネジメントを図り、ESD(持続可能な開発のための教育)の推進を行う。【教科横断的な視点】
- ・ 小学校及び中学校が一貫した教育課程の下で、地域住民等と連携及び協力をしながら教育活動を行えるように努める。
- ・ 保護者や地域の声を、学校評価等を通して把握し教育課程の改善に生かす。
- ・ 地域の教育力を活用するなど、必要な人的又は物的な体制を確保する。
- ・ 教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ることに努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- ① 学力向上
 - ・ 基礎基本の確実な習得
 - ・ 授業改善を目指したGIGAスクール構想の推進
 - ・ ソサエティー5.0を生き抜く力を育てる
- ② 見通しをもつ力（＝学びに向かう力）の育成 ～学校全体の教育活動を通して
 - ・ 特に学習指導・生徒指導・キャリア教育・生徒会活動との関連を図る
- ③ SDGsカリキュラムマネジメント ～持続可能な社会の担い手を育てる
 - ・ 各教科・領域・生徒会との関連
 - ・ 地域未来会議 地域と生徒会の関連を図る（地域が目指す生徒像の策定）
 - ・ SDGsプロジェクトチームの支援のもと、生徒会活動の活性化を図る
 - ・ 国際理解教育の推進
- ④ 誰一人取り残さないウェルビーイングな学校
 - ・ ウェルビーイングの深化（個から場へ）
 - ・ 教育相談、不登校対策の充実

- ・ 多様性を認める
- ・ 地域未来塾
- ・ チーム学校 業務改善 働きやすい職場

⑤ その他

- 地域ボランティアへの参加など地域との連携を図った特色ある学校づくりを推進する。
- 小中学校間で課題の共有を図り、学校園全体で課題解決に取り組む小中一貫教育を推進する。
 - ・ ホームページ，各種たよりの発行やPTA・地域協議会への情報提供などを通して，家庭や地域との連携を一層深める。
 - ・ 部活動の適正な実施など業務の適正化を図るとともに，「働き方改革推進チーム（仮称）」を組織し，ボトムアップによる働き方改革を推進する。
 - ・ 業務改善を進め，生徒と向き合う時間の確保を目指す。

【学習指導】

- ・ 「学業指導」の理念や「宇都宮モデル」を踏まえ，「はっきり・じっくり・すっきり」を意識した授業を展開・改善し，生徒の学ぶ意欲の育成や基礎・基本の確実な習得に努めるとともに，一人一授業の公開を基本とした研修に取り組み，授業力の向上を図る。
- ・ 魅力ある学校づくり地域協議会と連携し，課外学習を実施することにより，学力の基礎・基本の定着を図る。

【児童生徒指導】

- ・ 不登校対策プロジェクトチームの運用を明確かつ活性化させるとともに，家庭，その他関係機関と十分に連携を図った教育相談体制を構築し，不登校生徒の減少に努める。
- ・ いじめ防止にむけた効果的な取組を意図的・計画的に実践し，いじめの起こりにくい環境を構築するとともに，積極的に取組の公表を行う。また，いじめ調査などの充実を図り，いじめの早期発見・早期対応が機能する指導体制の充実を図る。
- ・ 問題行動等の発生に対して，学校全体で情報の共有を図り，組織的に対応する体制を一層強化する。（報告・連絡・相談の徹底）
- 外部講師等を招聘するなどして，スマートフォンなど情報機器の適切な使用について指導の充実を図り，ネットトラブル等の未然防止に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・ 交通ルールやマナーの重要性を理解させる指導に力を入れ，自他の生命の尊重に努める生徒を育成する。
- ・ 体力向上や心身の健康の保持増進に心がけ，自ら安全に活動できる生徒の育成に努める。
- ・ 食に関する指導の一層の充実を図るとともに，生徒の健康・安全管理の徹底を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 →生徒の肯定的回答 85%以上	○①「宇都宮モデル」などを踏まえ、全教科で「学び合う活動」を授業に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力（発表力・発言力）の向上を図る。 ②生徒が学び合える活動等を工夫し、教師がコーディネートすることにより、生徒のよさや努力したことを認め、励ますことによって、生徒の学習意欲を喚起する。特に発表時における言語活動を意識した助言を大切にする。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.7%で、目標を 3.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・「学びあう活動」（グループ活動や発表など）の目的や方法をより明確にすることで「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習活動や言語活動の充実に努める。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 →教職員の肯定的回答 90%以上	○①特別活動や道德教育の充実を図り、学校生活全般を通して、相手の気持ちを考えた言葉遣いや態度を取るよう指導する。 ②各学年行事（冒険活動教室・社会体験学習・修学旅行等）において、適切な言動が取れるよう指導するとともに、社会性スキルを身に付けさせる。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 95.3%で、目標を 5.1 ポイント上回った。昨年度に引き続き、高い水準である。 【次年度の方針】 ・学級活動や道德教育の充実を図り、学校生活全般を通して、相手の立場に立って物事を考えたり、自分の言動で相手がどんな気持ちになるかを考えたりできるように指導・支援し、人に優しく接したり、困っている人に手を差し伸べたりできる豊かな心を育む。また、良い言動が見られた時には大いに称賛して、個の良さを伸ばしながら集団へとつなげる。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 →生徒の肯定的回答 85%以上	①自己評価のための振り返りシート等を活用し、目標の見直しや改善・向上につなげさせる。 ②キャリア教育で伸ばしたい4つの基礎的・汎用的能力と今の学びとの関連を図り、将来を見据えた取組になるように意識付けを図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 83.5%で、目標を 1.5 ポイント下回った。昨年に比較して 2.6 ポイント低下した。 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートや授業での自己評価のための振り返りシート等を活用し、目標の見直しや改善・向上につなげさせる。 ・キャリア教育で伸ばしたい4つの基礎的・汎用的能力と今の学びとの関連を図り、将来を見据えた取組になるように意識付けを図る。 ・進路に関する学級活動を、学年で統一して計画的に行う。

<p>A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」各保健講座を実施するとともに、他の教育活動との関連を明確にして指導する。</p> <p>○②地域学校園児童・生徒指導部会で、交通ルール指導に関する共通理解を深め、小学校と連携しながら指導に当たる。</p> <p>③登下校指導を実施し、交通ルールの順守を繰り返し指導する。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.4%で、目標を 0.4 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・登下校指導や安全教育の充実を図り、生徒の規範意識の向上に努める。また、保健講座等の実施により、生徒の健康への意識向上を図る。</p>
<p>A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学年・学級・専門委員会等において目標を決めたり、学校行事の目標を設定したりすることにより、活動の目標を明確にし、生徒同士が共同的に目標に向かっていく態度を育成する。</p> <p>② 各学級・専門委員会等において自己の活動を省察する活動を行わせ、生徒自らの取り組みを今後に生かしていける指導を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 89.6%で、目標を 9.6 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・集団不適応や不登校生徒の解消を図るとともに、授業で困り感を持っている生徒やつまずきを感じている生徒への支援や適切な指導法について研修を深める。支援が必要な生徒には、担任・学年・学校と全体で取り組む。</p>
<p>A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上 →教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①英語科の授業で A L T とのコミュニケーションができる活動を取り入れる。</p> <p>②国際社会で活躍できる生徒の育成を目指し、英語によるコミュニケーションの大切さを伝えとともに、豊かな表現力の育成に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 72.2%で、目標を 18.2 ポイント下回ったが、昨年度と比較して 5.7 ポイント上がった。教職員の肯定的回答は 90.7%で、目標を 0.7 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・国際社会で活躍できる生徒の育成を目指し、「生きた英語」に触れる機会をさらに増やすとともに、異文化への理解とコミュニケーションの大切さを伝え、豊かな表現力の育成に努める。</p>
<p>A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①総合的な学習の時間の「宇都宮学」の中で、生徒に宇都宮の良さを実感できる活動を、企画・実践する。また、各種協力団体と連携を図りながら、生徒に地域のよさを実感できる取組の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.8%で、目標を 3.7 ポイント上回っている。昨年に比較して、1.7 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間での宇都宮学や働く人に学ぶ会、社会体験学習、地域連携のボランティア活動等を通して、地域との関わり大切さを学ぶとともに、進んで社会貢献しようとする生徒を育てる。</p> <p>・宇都宮学等で学んだことや、ボランティア活動の様子を HP などで発信し、保護者や地域の方に知ってもらう。</p>

<p>A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>○①一人一台の端末と通信ネットワークの校内整備を進め、全職員・全生徒が、「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」使えるようにし、ICTを用いて、効果的な学習効果や習熟を図れるよう工夫する。</p> <p>②学校図書館の授業での活用を推進し、よりよい言語活動や豊かな心の育成に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は 68.5%で、目標を 11.5 ポイント下回った。昨年度と比較しても 3.0 ポイント低下した。 <p>【次年度の方針】・タブレットPCを活用した授業での効果的な利用の充実を図るとともに、思考力を高め、表現力の育成を目指した指導法の研究に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修などで、授業におけるタブレットPCの具体的な使い方を教員が学び、授業で実践していく。
<p>A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心を持っている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①総合的な学習の時間を利用し、学年ごとに段階を踏みSDGsについて知るようになる。</p> <p>②学級や学校で取り組む活動を行い、これからの持続可能な活動への関心を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は 76.5%で、目標を 3.5 ポイント下回った。 <p>【次年度の方針】・総合的な学習の時間でSDGsに関する知識を得て、関心を高め、国際的視野から自分たちにできること活動に関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門委員会の活動の中に、SDGsに関連する内容があることに気付かせ、実感を持って生徒会活動に参加させる。
<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①特別な支援を必要とする生徒の実態把握や支援のあり方について、教員一人一人の理解を深める。</p> <p>②生徒指導係会や教育相談係会で、生徒の実態や状況について情報の共有化を図る。</p> <p>③不登校対策やQ-U検査などについて、教育相談の研修を通して相談技術の習得に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は 100%で、目標を 15 ポイント上回っている。 <p>【次年度の方針】・集団不適応や不登校生徒の解消を図るとともに、授業で困り感を持っている生徒やつまづきを感じている生徒への支援や適切な指導法について研修を深める。支援が必要な生徒には、担任・学年・学校と全体で取り組む。</p>
<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①宮っ子ダイアリーの確認を通して、生徒の思いや訴えを受け止め、適切な指導や相談を行う。</p> <p>②いじめアンケート実施を継続するとともに、早期発見・早期解決に努める。</p> <p>③生徒や保護者との信頼関係を深めながら未然防止や支援の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は 100%で、目標を 20 ポイント上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート実施を継続するとともに、早期発見・早期解決に努める。また、生徒や保護者との信頼関係を深めながら未然防止や支援の充実を図る。

目 指 す 学 校 の 姿	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上	①スタンダードダイアリーの確認を通して、生徒の思いや訴えを受け止め、適切な指導や相談を行う。 ②教育相談(年2回)やチャンス相談を通して、生徒理解に努める。 ③生徒の情報を多くの教職員で共有しながら、適切な支援の充実を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%で、目標を20ポイント上回った。 【次年度の方針】・教育相談(年2回)を通して、生徒理解に努める。 また、生徒の情報を多くの教職員で共有しながら、適切な支援の充実を図る。 ・校内資源を有効活用できるように、情報提供や情報共有を行い、共通理解を図る。
	A13 学校は一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 →教職員の肯定的回答 85%以上	① 生徒が目的意識をもって協力しながら学校行事等に主体的に活動し、達成感や自己肯定感を得られるような活動を支援する。 ② 生徒の自主的な生徒会活動を推進するとともに、充実した学校生活を支える委員会活動の活性化を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%で、目標を15ポイント上回った。 【次年度の方針】・学級目標や、学校行事の際の目標など、生徒個人の意見や考えを取り入れて設定し、目的意識をもって協力できる雰囲気を作る。 ・行事や委員会活動の振り返りを通して、自己の良さや成長を実感できるようにする。また、他の生徒の良いところを互いに伝え合うなど、自己肯定感を高められる振り返りの工夫をする。
	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 →生徒の肯定的回答 85%以上	①「分かる授業」展開のための「一人一授業」を行い、参観後にグループワークを行うなど、相互研修を充実させ、個々の授業力を向上させる。 ②家庭学習の充実に向け体制を確立するとともに、ICT(AIドリル・デジタル教科書)の活用や助言、指導を的確に行うための研鑽の場を作る。また、採点支援ソフトを導入することにより、詳細な生徒の理解度を把握し、より良い学習指導を展開する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は94.4%で、目標を9.6ポイント上回った。 【次年度の方針】・「家庭学習の手引き」や「家庭学習確認票」の利用を通して、生徒の学習への意識向上を図るとともに、保護者への啓発に努める。

<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①全教育活動を通して、各主任や主事が見通しをもって連携・協働するとともに、各学年や分掌間の情報交換・共通理解の充実を図る。</p> <p>②希望研修等への積極的に参加し専門性を高めたり、専門的な知識を持つ教職員との連携を深めたりして生徒支援の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は95.3%で、目標を15.3ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各主任，主事，分掌代表が会する会議を定期的開催し，教育活動の進捗状況や課題，今後の予定などを共有する。 ・教職員の研修計画を作成し，各教職員の専門性向上を支援する。また，研修に関する情報を教職員に提供したり，研修参加者による報告会を開催したりし，研修成果を共有する。
<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①採点支援ソフトを導入することにより教師の採点を支援するとともに，教員の業務時間を十分に確保する。</p> <p>②部活動指導のガイドラインに則った適正な実施など業務の適正化を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は74.4%で，目標を10.6ポイント下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの改善策を踏まえ，従来の業務内容をもう一度見直し，業務内容の精選を行うなどしてさらに改善を進める必要がある。
<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組みを行っている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①小中一貫教育の効果を共有し，取組の充実を図る。</p> <p>②各部会の活性化を図るとともに，乗入れ授業や各種交流を通して，地域学校園研究目標の達成に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的割合は83.7%で，目標を1.3ポイント下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の効果を共有し，取組の充実を図る。また，その活動を何らかの形で保護者や地域に発信する。 ・各部会の活性化を図るとともに，乗入れ授業や各種交流を通して，地域学校園研究目標の達成に努める。
<p>A18 学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，よりよい生徒の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →保護者の肯定的回答 85%以上 →地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○①地域行事等への生徒ボランティア参加を通し，家庭や地域，企業等と連携を図った生徒の健全な育成に努める。</p> <p>○②生徒が取り組む諸活動について理解を深めめる。そのため，学校HPに諸活動の様子を掲載したり各種たより等を発行したりすることにより，啓発と更なる協力を求めていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は84.6%で，目標を0.4ポイント下回った。地域の肯定的回答は77.8%で，目標を22.2%下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への参加を継続・推進させるとともに，累積シートに振り返りを記入させ，生徒の達成感等の向上を図る。
<p>A19 学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上 →保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①安全点検を実施し，危険個所の把握や適切で迅速な対応を検討し，安全な教育環境の維持に努める。</p> <p>②教育活動全般について，安全で適正な活動への見直しを行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は83.7%で，目標を3.7ポイント上回った。保護者の肯定的回答は86.2%で，目標を1.2ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校環境の安心・安全確保に努める。学校業務・機動班等と連携しながら，環境整備を図る。

	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 教員は1人1台端末の使用に関して研鑽に努め、校内研修などの機会を活用して共通理解を図るなどし、授業で効果的に活用できるようにする。</p> <p>② ICT機器（Chromebook）を積極的に活用し、充実した学習活動を保障するために校内環境整備に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は88.4%で、目標を8.8ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】・データの共有化を図ることで、誰でもICT機器が利用できるよう、校内環境整備の充実に努める。</p> <p>・学習のためにICT機器を使用することを念頭におき、授業で使用する際には使用の約束を確認する必要がある。</p>
学校の特色・課題等	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 普段の学校生活や授業で正しいあいさつができるよう、教師が進んで範を示す。</p> <p>② 生徒会のあいさつ運動を推進させ、日頃から進んであいさつができる雰囲気を作り、学校全体で作る。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は97.0%で、目標を7ポイント上回った。教職員の肯定的回答は90.7%で、目標を10.7ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒会活動の継続的な取組を充実させるとともに、実践的な態度の育成に努める。</p>
	<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上 →教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学業指導の徹底を図るため、学級委員長や生活委員会が中心となって呼びかけを行い、生徒の自発的・自治的な活動の充実に努める。</p> <p>② 学級活動や生徒会活動などの集団活動を通して規範意識の向上に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は95.4%で、目標を5.4ポイント上回った。教職員の肯定的回答は88.4%で、目標を1.6ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒の自発的・自治的な活動の充実に努めるとともに、学級活動や生徒会活動などの集団活動を通して規範意識の向上に努める。</p>
	<p>B3 生徒は、友達や周囲の人々とお互いにコミュニケーションをとることで、生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上 →教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>授業や学級活動などにおいて、生徒が自分のコミュニケーションのとり方に気付くような場面を設定する。また、生徒が今後どのようにコミュニケーションをとっていくのか、自己を振り返って考えることができる場面を設定する</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は94.4%で、目標を4.4ポイント上回った。教職員の肯定的回答は97.7%で、目標を7.7ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図るため、授業中のグループ学習や話し合い活動の場を増やす。また、自己を振り返り、時や場所に応じた言葉遣いについて、日々の声掛けを実施する。</p>
	<p>B4 生徒は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上 →教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 「家庭学習の手引き」や「家庭学習の記録」を活用し、宿題の出し方を工夫するとともに、1人1台端末を活用しながら、家庭学習の習慣を段階的に身に付けさせ、家庭学習の充実に努める。</p> <p>② 自主学習の大切さや考え方の助言をし、指導を継続することで、生徒の「主体的に」「学びに向かう力」の育成に向けた指導法を実施、工夫する。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は81.6%で、目標を8.4ポイント下回った。教職員の肯定的回答は69.8%で、目標を20.2ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・AIドリルの積極的活用をはかる。 ・AIドリルを使った学習の時間を設ける。（朝の学習）</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・数値目標については、31ある目標のうち21が数値目標を越えており、概ね良好な結果となっている。
 - ・数値目標を達成できなかった項目については、以下の通りである。
 - ・生徒の肯定的回答率が目標を下回った項目は、A3, A6, A8, A9, B4の5つである。
 - ・教職員の肯定的回答率が目標を下回った項目は、A16, A17, B2, B4の4つである。
- A3「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」
- ・教職員の肯定的回答率は昨年とほぼ同様に90.7%と高い数値を示している。しかし、生徒の肯定的回答率は83.5%であり、目標をやや下回っている。キャリア教育との関連を図り、将来を見据えた教育が実践できるよう、キャリア教育に重点的に取り組み、改善を図りたい。
- A6「生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている」
- ・教職員の肯定的回答率は昨年とほぼ同様の90.7%と高い数値を示しているが、生徒の肯定的回答率は72.2%である。しかし、昨年度と比較すると5.7%上昇しており、向上が見られる。国際理解教育の面から生徒の育成をはかり、英語によるコミュニケーションの大切さを理解させるとともに、豊かな表現力を育成できるよう、英語の学習指導を中心として重点的に取り組み、改善を図りたい。
- A8「生徒はデジタル機器や図書等を学習に活用している」
- ・市全体の割合と比較しても低い値であり、昨年度と比較しても3.0ポイント下落している。改善を進め、肯定的回答率の向上を目指したい。特にタブレットPCを活用する場面が多く、多くの教科で見られることが大きな要因であると考えられる。引き続きこの点については、タブレット端末を有効活用できる授業の展開と教材開発に努めたい。課題としては、図書の活用場を増やすことで、よりよい言語活動や豊かな心の育成を進めることである。
- A9「生徒は、「持続可能な社会」について、関心を持っている」
- ・教職員の肯定的回答率は昨年度と同様に高い水準にある。特に総合的な学習の時間におけるSDGsの取組に力を入れていたことがあげられる。ただし、生徒の肯定的回答率は市全体の肯定的回答率よりも低いため、引き続き活動への関心を高めるための工夫が必要である。
- A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」
- ・教職員の肯定的回答率は74.4%であり、昨年度よりも1.8ポイント下回り、かつ市全体の肯定的回答率よりも12.2ポイント下回っている。これまでのガイドラインの改善策を踏まえ、従来の業務内容をもう一度見直し、適正な勤務時間を保障し、業務内容の精選を行うなどしてさらに改善を進める必要がある。
- A17「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」
- ・教職員の肯定的回答率は83.7%であり、目標値を1.3%下回っている。昨年度とほぼ同様の横ばいの状態であるため、引き続き改善策等を講じていく必要がある。
- B2「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」
- ・生徒の肯定的回答は95.7%で、目標を5.7ポイント上回っているが、教職員の肯定的回答は92.9%で、目標を2.9ポイント上回っている。認識のずれが生じている可能性があるため、学校生活の様々な場面で継続して規範意識の向上を図ることができるよう、地道に努力を続けていく必要がある。
- B4「生徒は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている」
- ・教職員の肯定的回答率は目標値を20.2%下回っており、生徒の肯定的回答率も目標値を8.4%下回っており、両者の認識のずれが認められる。教師が生徒を正しく評価ができているかどうか、また、生徒自身の自己評価が妥当かどうかを検討する必要もある。それと同時に、目標を達成させるための有効な改善や工夫が引き続き求められる。」

7 学校関係者評価

(1) 自己評価【達成状況について】

- ・おおむね良好である。
- ・SDGsの取り組みを具体的に進めてほしい。「健康と福祉」の観点から、地域での挨拶運動なども良いのではないかと。地域を巻き込むような取り組みを期待する。
- ・「だれひとりとのこさない学校」という取り組みは素晴らしい。いじめ問題などにも積極的に取り組ん

でほしい。

- ・SDGs 活動については、地域住民に具体的に伝わっていない部分があるため、積極的な情報発信が求められる。

(2) 学校教育活動全般について

- ・交通ルールの遵守と交通マナー向上について。交通ルールを理解してない大人もいますので、中学生が見本となるよう意識してほしい。
- ・土曜授業オープンスクールについて。子供の学校内での様子を見る事ができて良かった。
- ・地域協議会主体で行っていたイベントがなくなってしまい、地域と生徒の結びつきができる場がなくなった。地域と学校が一体となって活動できる行事があると良いのではないかな。
- ・地域協議会と学校、そして地域住民の間で、より密接な連携や情報共有の必要性があるのではないかな。
- ・活発な活動をされていると思いますので、生徒会活動を地域に発信してほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

(1) SDGs の取り組みの具体化と地域連携強化

生徒が主体的に SDGs に関わる活動（地域での挨拶運動、高齢者施設訪問、清掃活動など）を検討する。また、SDGs への理解を深めるワークショップなどの活動を通じ、地域全体の SDGs に対する意識向上を図れるようにする。

(2) 「だれひとり取り残さない学校」の推進と情報発信

これまで講じてきたいじめ防止対策（定期的なアンケート調査・相談期間、生徒間のコミュニケーション促進活動など）を継続して実施する。また、これらの諸活動に関する情報を、学校ウェブサイトや学年通信などを通じ、地域へも積極的に発信する。

(3) 交通安全教育の強化と地域への発信

交通安全教室の実施、交通ルールに関するポスター作成、地域での交通安全啓発活動などを通じて、生徒の交通安全意識を高める。それとともに、生徒が交通ルールの模範となるように指導し、地域住民にも交通安全を呼びかける。

(4) 地域との連携強化と情報共有

地域協議会との連携をより密にし、定期的な情報交換や合同会議を開催する。また、地域協議会と協力したうえで、地域に生徒が貢献できる活動（ボランティア活動など）へ積極的に参加する。

(5) 生徒会活動の地域への発信

生徒会が地域に向けた広報誌等を作成することにより、活動内容や成果を定期的に発信する。また、地域住民を交えた地域協議会等にて地域の問題に対して協働的に取り組むことを通じ、地域へその活動を発信し、活動への理解を深める。